

第3回地域 DX 推進ラボの在り方等に関する検討会 議事要旨

1. 会議の概要

日時: 令和7年2月26日(水) 9時30分～11時30分

場所: 経済産業省会議室及びオンラインによるハイブリッド会議

2. 議事要旨

(1) 討議

① 地方版IoT推進ラボの取扱い

- 地方版IoT推進ラボは多くの団体が手を挙げて横のつながりを創出した点では、一定の成果はあった。ただ、地域DX推進ラボへ移行して3年経ち、移行の意思があまりないこと考えると地方版IoT推進ラボはそろそろ店終いして良い。他方で機運残る地域もあり、最後のお声かけはした方が良い。
- 数年前まではIoTは大事なキーワードだったが、メディアに取り上げられないほどある意味当たり前になっており異論はない。今や生成AIも出てきている時代であり、IoTにこだわらず柔軟に対応できるように事務局からも適切な誘導が必要。
- 地方版IoT推進ラボは、廃止、移行で良い。アンケートでは、地域DX推進ラボへ移行しない理由で「移行の必要性を感じない」ともあるが、見方によっては支援を必要としない自立できるような形で、1つの望ましい姿ではないか。支援して、ある程度自立型で取り組むことは1つの目指すべき姿と考える。
- アンケートの自己申請ではなく、客観的な識別も必要ではないか。
- 1年前のアンケート結果であるが、その後の変化を知りたい。前提としては地方版IoT推進ラボというのは店を閉めて、基本的には地域DX推進ラボに移行する方針で良いが、「活動がDXのレベルに至っていない」という回答に対しての対応の検討が必要。
- 国の事業として地域DX推進ラボに一本化するの賛成。アンケート結果の「DXのレベルに至っていない」、「領域が異なる」の回答は、DXが高度でIoTが下と勘違いしている可能性もあり、むしろIoTを含む広い概念がDXであると事務局の丁寧な説明が必要。他方で、地方版IoT推進ラボという名前が浸透し、名前を変えたくない場合の対応方法を検討しておく必要がある。
- 地方版IoT推進ラボのブランドを守りたい方々への丁寧な対応が必要。
- 同様に「DXのレベルに至っていない」の回答は気になる。解釈もあるが、仕上がっていないと地域DX推進ラボの体制は構築できないということではなく、ラボ全体で目指す方向性に同意しているコミュニティという方向性が共有されていない。
- 方向性の共感と熱意が重要。一つの基準でレベルを測るものではないことも共有が必要。
- 地方版IoT推進ラボが定着し、名前を使い続けたい場合には容認するのか、拒否するのかは決めておく必要がある。個人的には、名前は自由に使って良いと考える。
- 地方版IoT推進ラボの支援措置終了させる方向。地域DX推進ラボへ移行を促すため本来の制度の趣旨と意義について方向性を共感することが大切。地方版IoT推進ラボの名称を引き続き使いたいという方々への尊重も必要。

② 地域DX推進ラボの運用の見直し

- 運営方針についてはほぼ事務局案で良い。前提としてDXはすごい大変なことだという印象が先立っている。今は安価で高度な処理ができるツールも多い中、身構えてしまうのは残念。名前の変更はできないが、取組の実態としては地域デジタル推進ラボのような位置付け等を示すと良い。
- 非常に核心をついた意見。実際にDXの意義について、今までの難しいことを目指すという意識を変えて、特にお金も必要ないと、大きな意識変革をリードする必要がある。
- ユーザー企業も何か面白いことしているなど興味関心を持ち始めており、最初DXと言われると敷居が高いと感じられていたが、相談を聞くうちに意欲的になっていく。
- 地域DX推進ラボを名乗るメリットは恐らく自慢、アピールできることだと考えている。PRによっては他地域を萎縮させる可能性もあるが、仲間作りとなれば良い。他にも、地域DX推進ラボに手を挙げられない地域の方をDXの波から外れないように、DXラボコミュニティで他地域の方々も巻き込んでいけると良い。
- 全国コミュニティで個々の取組のPRを発信できるようにする必要がある。地域DX推進ラボに選定されていない方々を発掘、巻き込むためローカルなイベントも重要。
- 自治体の窓口改革を進めているとある市ではDXのDを「デジタル」ではなく「できることから」としており、全職員が自分ごととして取り組んでいる。アンケートの結果を見ても、DXが高尚なものだと勘違いしている傾向があり、身近なことから少しずつ取り組むことが重要と説明した方が良い。
- 自治体のDX推進には地域DXとの言葉はあるが、自治体の業務改革は推進している一方、地域DXの優先度は低い。地域DX推進ラボとの関連性、位置付けの整理もできていない印象。地域DXには自治体のみならず、様々な方々を巻き込む重要性は多くの省庁が示しているが整理がついていない印象。
- 連携によるイノベーションを起こすことは時間のかかることだが、地域では連携を促進し、結果を残す企業もいる。この多様な主体の組み合わせによるイノベーションをリードできる人材を評価する等、実は突き詰めると、地域DXとは地域の人材育成とも考えられる。最近の若い方はプロジェクト型の教育等を受け変わってきており、若い方も巻き込んで、さらにイノベティブな取組を地域DX推進ラボで推進できると良い。
- 地方版IoT推進ラボは、元々緩やかなコミュニティで地域課題を解決に向けた動きであり、自治体の地域支援、企業支援の部署の両方に関連し、担当部署がわかりづらい。今回よろず支援拠点を巻き込んで経済産業省が目指す企業のDX、デジタル化へとつなげた方が自治体の部署も定まり、企業課題が解決すれば地域課題も解決する。他方で、DX推進を担う人材は少なく、自治体や金融機関等どこが主体となっても良いが結局はキーパーソンを地域で探すことがDX推進につながる。
- プロジェクトをアジャイル型で進める際には、修正しても良いから最初に関係者でゴールについて議論し、ゴールを決める必要がある。地域という言葉は、広義的であり、経済産業省として地域DX推進ラボの関係主体をフラットに捉えるのではなく、企業に焦点を当てて良い。企業が成長すると地域に法人税となって還元され、好循環の起爆剤となりうる。
- 地域DX推進ラボには自治体の関与が必須となっているが、自治体は2、3年での異動や縦割り意識が強い等の特徴がある。自治体の縦割りを排除し、多くの部署を巻き込むのは自治体の職員ではできず、外部の人が関係性を構築しながら活用することが必要だと考えている。最近ではスタートアップの

方や若手の社会課題を解決したいNPOの方々も同様に取り組んでいる。

- ゴールを示すことは重要で、地域DX推進ラボの審査時にDXで何をしたいのか不明瞭なこともあった。DX推進の結果、例えば地域企業の売上、利益、若者の給料を倍にして、未婚率を下げて出生率を上げるとか、今度の審査から途中で変えてもいいので具体的な目標を示してもらう方が良い。
- 具体的な目標は必要。最近では地域を変えようという熱量を持った若い方々もあり、外部から自治体の多くの部署と関わり、新しい事業を外側で作ることもあり得る。自治体職員は、自治体組織の文化の中で一人だけ異端児になれないという心理的障壁があるが、実は、自治体の方々も内心ではそのような外部からの連携を望んでいるのではないかと。
- 地域DX推進ラボの発生プロセスや関わったプレイヤーのビジネスモデルが見えると良い。DXラボコミュニティで情報が得られるメリットもあるが、ラボを構成することによる関係者のビジネスモデル的な観点のメリットを伝えられると、空白地域へ広がる余地もあり、最初の発生プロセスのサポートもできる。
- 資料で示されている現状の目指すべき姿は、まだゴール感がなく、関係性の俯瞰図になっている。事業化すると企業にお金が入り、コミュニティにもリターンをもたらす。成功したらメンターとして後進を育てたい方もおり、そうした成功者による貢献が全体のリソースを循環させる。資料では、現在、5つの主体が完全にフラットで円になっているが、経済産業省的には、産業を興して利益を上げ、雇用と利益で地域に還元する企業に焦点を当てて示すと良い。
- 人材育成をミッションにしている企業もいるため、金銭的な価値のみならず、地域DX推進ラボが貢献できることを多面的に示せると良い。
- 地域DX推進ラボで活躍するキーパーソン属性が見えると、地域のステークホルダーが動き出すきっかけもわかる。本気で全国DX推進するのであれば、何カ所かエリアごとの成功事例にお金や人材等を徹底的に支援すると、先進事例は競争し、横展開につながる。
- メリハリをつけて、先進的な取組に集中投資、集中支援も良い。
- 支援のスキーム自体をDXする方が良い。地域DX推進ラボの方々が相談するコミュニティサイトやSNSがあると良い。また、横並びではなく、進んでいる地域DX推進ラボを先生として地域を超えた支援も良い。
- 自治体のDX計画を見ると内向きの計画になっており、デジタルデバйд対策が主だった内容。表彰制度も良いが、1つの先進的な成功事例が必要ではないかと。
- できるところからDXを推進し、ゴールを明示的に示すことが重要である。個々の取組のPRを全国展開できるようにし、横並びではなく先進的な取組へのメリハリのある支援が必要だということ。さらなる展開に向けて、総務省における同様の取組の次期計画との連携も必要。今後の取組方針については、企業に軸足を置くのか、どういうコンセプトでいくのか、コンセプトをより明確にする方向で検討が必要。

(2) 今後の進め方

- 第4回検討会を3月19日水曜日15時から17時で開催を予定。

以上